ＩＣＴ学習教材コンテンツ活用実践事例

学校名	県立弘前第一養護	学校

授業について	教科領域名 （✓又は■で 記入する。）	□国語　□社会　□算数・数学　□理科　□外国語・外国語活動　□生活　□音楽 □図画工作・美術　□体育・保健体育　□技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 □特別の教科　道徳　□総合的な学習（探究）の時間　■日常生活の指導 □生活単元学習　□作業学習　□遊びの指導　□特別活動　□自立活動 □その他（　　　　　　）
	単元(題材)名	朝の会・帰りの会の進行をしよう
	単元(題材)の目標	自分でタブレットを操作し、画面のイラストを手掛かりに進行をする。
学習集団と実態	学部・学年・人数	中学　部　重複１　年　6　人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	・文字や数字を読める生徒、教師の言葉を聞いて真似て話す生徒、声が小さく不明瞭な生徒、簡単な手話を使う生徒、発音がない生徒と実態は様々である。 ・輪番で進行を担当することへの抵抗はなく、顔写真カードを見て誰が当番なのかは分かる。
ＩＣＴ活用について	使用した支援機器・教材の名称	iPad
	使用したアプリケーションの名称	Keynote
	主な活用の用途 （✓又は■で 記入する。）	(複数選択可能) ■コミュニケーション支援　（■意思伝達支援　□遠隔コミュニケーション支援） □活動支援　（□情報入手支援　□機器操作支援　□時間支援） ■学習支援　（□教科学習支援　□認知発達支援　■社会生活支援） □実態把握支援
	ＩＣＴ活用のねらい	・人前で話すのが苦手な生徒、文字を読むのが苦手な生徒でもタブレットを操作することで自信をもって進行役を行うことができる。 ・文字とイラストを表示することで、言葉の獲得につなげる。
活用の状況と支援	活用の状況と支援	・画面を操作するためのボタンの場所を覚えて、自分でボタンを押して進行できるようになってきたが、一人でテンポよく進行することは難しく、教師による言葉掛けや合図などの支援が必要である。 ・発音の不明瞭な生徒、発音のない生徒が当番のときでも、画面を見て他の生徒が自分から起立や着席を行うようになってきたが、タブレットに頼るだけでなく、当番として自分の声や手話で起立、着席を伝えるように指導が必要である。 ・読み上げアプリを活用しての進行も考えていきたい。